

【研究ノート】

# 「地域の言葉」を外国人は理解しているか — 沖縄県内高校生に対する調査結果との比較から —

尚真貴子 佐々木香代子

Makiko SHO Kayoko SASAKI

## 1. はじめに

法務省在住外国人統計によると、2015年12月末現在、沖縄県内には12,952人(うち2,710人が留学生)の外国人が在住している。沖縄NGOセンターが平成26年度に実施した「沖縄県在住外国人アンケート」結果によると(以後、沖縄NGOセンター(2015)とする)、在住外国人の80%が仕事に就いており(自営業を含む)、40%弱が子どものいる家庭で、うち半数が子どもを日本の学校に通わせていることから、在住外国人の多くが沖縄の人々と日常的に接触を持っていることがわかる。また、日常会話程度以上の日本語能力を有する外国人は62%に達しているものの、31%の外国人が「言葉が通じないこと」を「日常生活の悩み」として挙げている。同調査では、「日本語能力」についての質問肢はあるが、地域のことばについての理解については質問がないため、ほとんどの沖縄の人々が共通語、ウチナーヤマトゥグチ<sup>(1)</sup>、方言を混ぜて使用する現状を考えると、外国人がどの程度沖縄の人々とコミュニケーションがとれているのか、疑問が残る。

そこで、筆者らは、沖縄県内在住外国人を対象に、地域のことばであるウチナーヤマトゥグチおよび方言の使用・理解について調査を行い、彼(女)らの実態を把握することにした。調査は2015年12月～開始し、現在に至るまで回収中である。本稿では、現時点で回収済みの調査票を基に分析・考察を試みる。

## 2. 先行研究：沖縄の大学生および高校生に対する調査結果

筆者らは、2009年～2010年に沖縄県内(以後、県内とする)4大学に在籍する大学生の調査を行い、その後、宮古・八重山地方を除く県内の全日制公私立高校47校に在籍する1年生および3年生を対象に、2011年～2012年に質問票2種類と記述回答による調査を実施した<sup>(2)</sup>。

---

(1) ウチナーヤマトゥグチについて、屋比久(1987)は「日本語が沖縄方言に取って替わる言語転移の過程において起こった様々な干渉又はその結果うまれてきた色々な言語作品等を含む多種多様な言語現象」(1987:119頁)と述べ、真田(2001)は「ヤマトグチとの接触、あるいは標準語習得の過程で、基盤方言の干渉を受けて生まれた沖縄独自の中間的言語変種である」(2001:70頁)と述べている。筆者らは、「伝統的な沖縄方言ではなく、全国共通語でもなく、沖縄方言的な要素を含む言葉である」(尚・佐々木・狩俣,2013)と考える。

(2) 平成23年度～25年度科学研究費補助金基盤研究(C)「高校生の沖縄語使用についての調査・研究：消えていく言葉の中で何が残っていくか？」研究課題番号23520557、代表者：佐々木香代子。

その結果、大学生、高校生ともに①ウチナーヤマトゥグチが使用語彙であり、方言は理解語彙に留まっている、②方言を使用する場合、単独の語での使用に留まる、③方言を品詞別に分類すると、名詞が40%前後を占める、④共通語を核に、ウチナーヤマトゥグチや方言を入れ込んで発話しているという特徴が見られた。また、高校生に対する調査結果からは、①男性よりは女性、②県内での進学・就職希望者、③南部地域出身者、④両親がどちらも県内出身者が方言を積極的に使用するという関連性が見られた他、方言については、①身近な動物や食材、食べ物のことばをよく知っている、②テレビやラジオ放送、CM、アニメなどで使われることばや決まり文句は理解している、③程度副詞のバリエーションが多い、④方言の動詞や形容詞の語尾を共通語化することで、「方言+共通語」のことばを作っている、⑤共通語では言いにくいことばを若者同士でシェアするために、人を悪く言うことばに方言を使用する等の特徴が見られた。

本稿では、上記結果を参照しつつ、沖縄に在住する外国人がどの程度地域のことばであるウチナーヤマトゥグチと方言を使用・理解しているのか検討する。

### 3. 調査の概要

2015年12月～県内在住の外国人に対し、沖縄の言葉に対する理解についてのアンケート調査を開始<sup>(3)</sup>、現在に至るまで回収中である。本稿では、回収したアンケート（スペイン語母語話者およびインドネシア語母語話者）の調査結果を分析・考察する。

#### 3.1. 調査項目

アンケートは、沖縄のことば（方言）の理解についての調査と沖縄のことば（ウチナーヤマトゥグチと方言）の使用と理解に対する意識調査に分けて行った。

沖縄のことば（方言）の理解についての調査は、1）日常生活語彙（名詞23語）、2）人を表すことば（名詞16語）、3）程度を表すことば（副詞21語）、4）人間関係を表すことば（名詞9語）、5）オノマトペ（11語）の5つの各項目で、回答者がそれぞれ適切な語を選択するという形式で調査を行った。調査に用いた語は、高校生に対する調査のうち記述回答欄に高校生が書いた言葉で多かったものから選択した。

沖縄のことば（ウチナーヤマトゥグチと方言）の使用と理解に対する意識調査は、「自分は使う」「自分は使わないが、理解できる」「自分は使わないし、理解もできない」の3件法で行った。質問項目は、過去に行った2回のアンケートの質問項目50項目から「人を表すことば」を削り<sup>(4)</sup>、これに高校生が記述回答した沖縄の言葉のうち、頻度の高かった方言を新たに加えて、50語（ウチナーヤマトゥグチ25語、沖縄方言25語）とした。

(3) 本調査は、平成27年度沖縄国際大学特別研究費特定研究(C)（代表者：尚真貴子）の助成を受けて実施した。

(4) アンケートの質問項目50項目にあった「人を表すことば」は全て沖縄のことば（方言）の理解調査の「人を表すことば」の質問項目とし、これに高校生に対する記述調査で回答の多かった「人を表すことば」を加えた。

### 3.2. アンケートを回収した対象者の母語および人数

県内在住の外国人のうち、スペイン語母語話者 38 名およびインドネシア語母語話者 19 名、計 57 名<sup>(5)</sup>。

## 4. 質問票の分析と結果

分析は、SPSSversion18 を用いて行った。今回はデータ数が 57 件と少ないため、記述統計（度数分布とクロス集計）で分析を行い、 $\chi^2$ 検定は行わなかった。

### 4.1. 沖縄のことは（ウチナーヤマトウグチと方言）の使用と理解に対する意識調査

#### 4.1.1. 度数分布の結果

分析は、SPSSversion18 を用いて行った。各々の項目について「自分は使う」と評定した割合を値の高い順に示したのが表 1 である。以下、「自分は使わないが、理解できる」の評定結果は表 2、「自分は使わないし、理解もできない」の評定結果は表 3 である。

表 1：「自分は使う」と評定した語の頻度順

※斜線・太字は、ウチナーヤマトウグチ、〔 〕内は語の意味を表す。

割合	語
90%以上	
80～89.9%	「じょうとう」「～ようね／～ましようね」
70～79.9%	「～はず」
60～69.9%	
50～59.9%	「トイレする」「モップする」「腐れる」「(布団を) かぶる」
40～49.9%	「お昼する」「～ながら」「～わけ?」「(着る物が) せまい」「(服を) 着ける」「なんぎ」「来る」「なおす〔片づける〕」「ふとい (本)」「だー」
30～39.9%	「～(し)きれない」「いだけで」「～わけ」「なんくるないさ」「なんぎする」「やなー」「ゆんたくする」「ちばりよー」「あわてる」「(数を) よむ」「あがー」「だーる」
20～29.9%	「たたかれる」「～食べれ／～しれ」「～じょーぐー」「やな～」「あじくーたー」「(傘を) かぶる」「じらー」「～さーねー」
10～19.9%	「ちゃー」「くわっちー」「ふらー」「めーごーさー」「いみくじわからん」「にりる」「はごー」「かめー」「ちむい」「かじゃー」「ぬーそーが」
9.9%以下	「しかむ」「やしが」

(5) 沖縄県に在住している外国人（登録者）は、法務省在留外国人統計によると、2016. 6月現在、13,214人であり、うち、インドネシア語を母語とする人たちは406人、スペイン語を母語とする人たちは計395人である。本調査でアンケートが回収できた人数は、それぞれの母集団の5%あるいは10%以下であり、また、回収した人数分に関しては年代および滞在歴の偏りがある可能性が考えられる。したがって、今回回収した人数分のアンケート結果をもって、それぞれの母語別の特徴をみなすことには無理があるため、インドネシア語母語話者とスペイン語母語話者との比較・考察は行わない。

表2：「自分は使わないが、理解できる」と評定した語の頻度順

割合	語
90%以上	
80～89.9%	
70～79.9%	
60～69.9%	「ちばりよー」
50～59.9%	「～(し) きれない」「いただいで」「たたかれる」「～食べれ/～しれ」「なんくるないさ」 「(傘を) かぶる」
40～49.9%	「トイレする」「お昼する」「～わけ」「(着る物が) せまい」「(服を) 着ける」「ふらー」 「いみくじわからん」「来る」「(数を) よむ」「なおす [片づける]」「ふとい (本)」 「あがー」「かめー」
30～39.9%	「モップする」「～ながら」「～わけ?」「腐れる」「チャー」「くわっちー」「なんぎ」「なんぎする」 「めーごーさー」「(布団を) かぶる」「しかむ」「あわてる」「～さーねー」
20～29.9%	「～はず」「やなー」「やな～」「ゆんたくする」「あじくーたー」「にりる」「やしが」 「はごー」「じらー」「だー」「だーる」「かじゃー」「ぬーそーが」
10～19.9%	「～ようね/～ましようね」「じょうとう」「ちむい」
9.9%以下	「じょうとう」

表3：「使わないし、理解もできない」と評定した語の頻度順

割合	語
90%以上	
80～89.9%	
70～79.9%	
60～69.9%	「ちむい」
50～59.9%	「しかむ」「にりる」「やしが」「はごー」「かじゃー」
40～49.9%	「チャー」「くわっちー」「～じょーぐー」「めーごーさー」「あじくーたー」「じらー」 「ぬーそーが」
30～39.9%	「やなー」「やな～」「いみくじわからん」「～さーねー」「かめー」「だーる」
20～29.9%	「ふらー」「ゆんたくする」「あわてる」「だー」
10～19.9%	「モップする」「たたかれる」「～食べれ/～しれ」「～ながら」「～わけ」「(服を) 着ける」 「なんぎする」「(傘を) かぶる」「(数を) よむ」「なおす [片づける]」「あがー」
9.9%以下	「じょうとう」「トイレする」「お昼する」「～はず」「～ようね/～ましようね」 「～(し) きれない」「いただいで」「～わけ?」「(着る物が) せまい」「腐れる」 「なんくるないさ」「なんぎ」「ちばりよー」「(布団を) かぶる」「来る」「ふとい (本)」

#### 4.1.2. 度数分布結果の考察

- ・高校生に対する調査では、「じょうとう」「～はず」が80%台、「～ようね/～ましようね」の使用率が70%台であった。本調査では、割合に多少の入れ替わりはあるものの、「じょうとう」「はず」「～ようね/～ましようね」が70%台～80%台の使用率になっており、共通の傾向が見られた。
- ・全体的にウチナーヤマトウグチの使用率が高く、使用率19.9%以下は全て方言であり、この傾向は高校生に対する調査結果と同じである。
- ・「自分は使わないが、理解できる」レベルになると、ウチナーヤマトウグチと方言の明確な違いはないが、20～30%台に方言が集中していることから、方言は使用もしないし、理解も低いことが示唆される。
- ・「自分は使わないし、理解もできない」と評定した語は、方言が30%～60%台に集中しているのに対し、ウチナーヤマトウグチは20%台以下に集中していることから、ウチナーヤマトウグチに比べて方言は習得が難しいということが示唆できる。

#### 4.1.3. クロス集計の結果

意識調査の評定結果を、滞在歴別、年齢別、性別毎にクロス集計した。滞在歴は、滞在歴10年未満と10年以上の2段階にわけ、年齢は20～30代、40～50代、60代以上の3段階にわけた。

##### 4.1.3.1. 滞在歴2段階別

表4：滞在歴別評定語数

評定	10年未満	10年以上
自分は使う	7語	26語
自分は使わないが、理解できる	16語	22語
自分は使わないし、理解もできない	23語	1語
自分は使う・自分は使わないが、理解できる が同率	3語	1語
自分は使う・自分は使わないが、理解できる・自分は使わないし、理解もできない が同率	1語	

滞在歴10年未満の「自分は使う」7語はすべてウチナーヤマトウグチであるのに対し、滞在歴10年以上の「自分は使う」は26語中7語が方言だった。一方、滞在歴10年未満の「自分は使わないが、理解できる」16語中2語(「なんくるないさ[なんとかなるさ]」「ちばりよー[頑張れ]」)は方言であり、滞在歴10年以上は22語中17語が方言であった。「自分は使わないし、理解もできない」については、滞在歴10年未満の23語中22語および滞在歴10年以上の1語(「ちむい[かわいそう]」)が方言だった。

## 4.1.3.2. 年齢別

表5：年齢別評定語数

評定	20～30代	40～50代	60代以上
自分は使う	10語	20語	13語
自分は使わないが、理解できる	17語	22語	28語
自分は使わないし、理解もできない	23語	2語	3語
自分は使う・自分は使わないが、理解できる が同率		5語	4語
自分は使わないが、理解できる・使わないし、理解もできない が同率			1語
自分は使う・自分は使わないし、理解もできない が同率		1語	1語

20～30代の「自分は使う」10語中9語、40～50代の20語中14語、60代以上の13語中11語がウチナーヤマトウグチだった(20～30代の「自分は使う」と評定した方言1語は「あがー〔痛い!〕」)。一方、「自分は使わないが、理解できる」は、20～30代は17語中2語(「なんくるないさ〔なんとかなるさ〕」「ちばりよー〔頑張れ〕」)、40～50代は22語中15語、60代以上は28語中16語が方言だった。「自分は使わないし、理解もできない」は、20～30代の23語中22語、40～50代の2語中2語、60代以上の3語中3語が方言だった。

## 4.1.3.3. 性別

表6：性別評定語数

評定	男性	女性
自分は使う	12語	20語
自分は使わないが、理解できる	18語	21語
自分は使わないし、理解もできない	18語	6語
自分は使わないが、理解できる・使わないし、理解もできない が同率	2語	3語

男性の「自分は使う」12語はすべてウチナーヤマトウグチであるのに対し、女性の「自分は使う」20語中6語は方言だった。一方、「自分は使わないが、理解できる」は、男性18語中6語、女性21語中10語が方言だった。「自分は使わないし、理解もできない」の男性18語、女性6語はすべて方言だった。

## 4.1.4. クロス集計結果の考察

・ウチナーヤマトウグチは、滞在年数、年齢、性別に関係なく使用または理解できるが、方言は滞在

10年未満、20～30代、男性の場合、「自分は使わないし、理解もできない」と答える割合が高いことから、滞在年数、年齢、性別の影響を受けることが本調査結果から示唆される。方言の使用・理解については、滞在年数10年未満<10年以上、20～30代<40～50代、60代～、男性<女性と表すことができる。

## 4.2. 沖縄のことば（方言）の理解についての調査結果

### 4.2.1. 度数分布の結果

表7：日常生活語彙の正解率

正解率	ことば
90%以上	ごーやー
80～89.9%	しーくわーさー、さーだーあんだぎー、むーちー
70～79.9%	ひーじゃー、なーべーらー、じゅーしー、
60～69.9%	ふーちばー、しぶい
50～59.9%	うーじ、がじゃん、まやー、ひらやちー、ていーだ、まーみなー、あかばなー、かんぶー、まーす
40～49.9%	やーるー、とーびーらー、いん、がんちよー
30～39.9%	さんいん
20～29.9%	
10～19.9%	
9.9%以下	
正解回答なし	

高校生に対する調査では、身近な動物や食材、食べ物の方言はよく知っているという結果が見られた。本調査においては食材や食べ物の方言の正解率は高いが、身近な動物に関してはやや低い結果になった。

表8：人を表すことばの正解率

正解率	ことば
90%以上	
80～89.9%	ちゅらかーぎー
70～79.9%	うみんちゅ、がちまやー、ないちゃー
60～69.9%	
50～59.9%	うーまくー、ふらー/ふりむん、よーがらー
40～49.9%	ちゅーばー、でいきやー
30～39.9%	いばやー、がーじゅー、ゆくさー
20～29.9%	りっちゃー
10～19.9%	しかさー、たんちゃー、びーらー
9.9%以下	
正解回答なし	

人を表すことば<sup>(6)</sup>の正解率は全体としては低いが、「ちゅらかーぎー [美人]」「うみんちゅ [漁師]」「ないちゃー [内地の人]」という一般的によく耳にする語の正解率は高い。高校生に対する調査では使用、理解ともに20%台であった「がちまやー [食いしん坊]」の正解率が本調査では高い。

表9：程度を表すことばの正解率

正解率	ことば
90%以上	
80～89.9%	
70～79.9%	
60～69.9%	
50～59.9%	
40～49.9%	でーじ
30～39.9%	いっぺー、しに
20～29.9%	
10～19.9%	さっこー、てーげー、うすまさ
9.9%以下	しか、しにかん、したた、しゃに、やっけー、じゅんに
正解回答なし	さら、したたか

程度を表すことばの正解率は全体的に低いが、「でーじ」「いっぺー」「しに」というよく使われる程度副詞の正解率は、この中では高い。

(6) 人を表す接尾辞には「+アー」と「+ヤー」があるが、宮良(2000)は、動詞語根に付属する接尾辞「+ヤー」について、「英語における接尾辞 '+er' とかなり似ている」(44頁)と述べている。

表10：人間関係を表すことばの正解率

正解率	ことば
90%以上	
80～89.9%	
70～79.9%	
60～69.9%	
50～59.9%	
40～49.9%	やー、どうし、いなぐ、わん
30～39.9%	いきが、わったー
20～29.9%	しーじゃ、いったー、うっとう
10～19.9%	
9.9%以下	
正解回答なし	

人間関係を表すことばの正解率は低いが、一人称単数を表す「わん〔私〕」「やー〔お前〕」の正解率は一人称複数を表す「わったー〔私たち〕」「いったー〔お前たち〕」に比べ、高い。高校生では、「しーじゃ〔年上の者、先輩〕」「うっとう〔年下の者、後輩〕」という先輩・後輩関係を表す語の使用が高かったが、本調査ではこれらの語よりも同等の関係を表す「どうし〔友人、仲間〕」の正解率が高い。

表11：オノマトペの正解率

正解率	ことば
90%以上	
80～89.9%	
70～79.9%	
60～69.9%	うーとーとー、あちこーこー
50～59.9%	わじわじー、むちゃむちゃ
40～49.9%	ちむどんどん、しりしりー、歯ぎしぎしー、鼻ぴーぴー
30～39.9%	ちーごーごー
20～29.9%	ちーちーかーかー、よーがりひーがり
10～19.9%	
9.9%以下	
正解回答なし	

オノマトペの正解率は全体として高くはないが、清明祭やお盆等の仏事で使用したりCMで耳にする「うーとーとー〔神仏や先祖を拝むときのことば〕」、食堂やスーパーの表示などで目にする「あちこーこー〔料理が出来たてで湯気がたっている様子〕」の正解率が高い。高校生の記述回答では、「わじわじー〔イライラする様子〕」「ちーごーごー〔血がだらだら流れる様子〕」「ちーちーかーかー〔食べ物

が喉につかえる様子]」が多かったが、本調査では「ちーごーごー [血がだらだら流れる様子]」「ちーちーかーかー [食べ物喉につかえる様子]」ともに正解率が低く (20～30%台)、「わじわじー [イライラする様子]」も50%台にとどまった。

#### 4.2.2. 度数分布結果の考察

・日常生活で使用する名詞の正解率は全体的に高いが、それ以外のことばの正解率は全体的に低い。高校生が記述回答した語には、身近な動物や食材、食べ物だけでなく、人を表すことば、人間関係を表すことば、オノマトペなどの広がりがあった。外国人の場合は、日常生活語彙の正解率のみが相対的に高く、その中でも食に関する言葉に正解が限られており、方言語彙の習得の難しさが示唆される。

・高校生に対する調査では、程度副詞のバリエーションの多さが目立っていたが、本調査では、日常よく耳にするとと思われる「でーじ」が40%台、「しに」「いっぺー」が30%台と低い正解率にとどまっている。これらの語の習得には2語以上の文理解が必要になるため、名詞の習得より難しいのかもしれない。

・人間関係を表すことばは相対的に正解率が低かったが、その中で、一人称単数の語は40%台、一人称複数の語は20～30%台という違いがあった。これは日常生活の中で、外国人が「わったー[私たち]」「いったー[お前たち]」と呼ばれる関係を沖縄の人たちと築きにくい (=沖縄社会に溶け込みにくい) 環境にあるということの表れであるかもしれない。「しーじゃ[年上の者、先輩]」「うっとう[年下の者、後輩]」も正解率が20%台であることから、沖縄の人と先輩、後輩と呼び合える関係を築ききれていない可能性も考えられる。「どうし[友人、仲間]」は職場内での同僚にも使えるので、40%台と比較的高い正解率になったと思われる。

・人を表すことばの「ちゅらかーぎー[美人]」「うみんちゅ[漁師]」「ないチャー[内地の人]」、オノマトペの「うーとーとー[神仏や先祖を拜むときのことば]」「あちこーこー[料理が出来たてで湯気がたっている様子]」の正解率が高いのは、これらの語がそれだけ日常生活レベルで頻繁に見聞きすることばであり、それが自然習得につながっていくことだろう。

#### 4.2.3. クロス集計の結果

沖縄のことば(ウチナーヤマトウグチと方言)の使用と理解に対する意識調査同様、沖縄のことば(方言)の理解度の回答結果を滞在歴別(滞在10年未満、10年以上)、年齢別(20～30代、40～50代、60代以上)、性別毎にクロス集計した。

##### 4.2.3.1. 滞在歴2段階別

###### 1) 日常生活語彙(名詞)

滞在歴10年以上は、全て「正解」が「不正解」「無回答」を上回っていた。滞在歴10年未満は、「無回答」

が「正解」「不正解」を上回っていた(23語中17語)。滞在歴10年未満の回答で、「正解」が他を上回っていたのは、「しーくわーさー〔ひらみレモン〕」「ごーやー〔苦瓜〕」「なーべーらー〔へちま〕」「じゅーしー〔沖縄風炊き込みご飯〕」「さーだーあんだぎー〔沖縄ドーナツ〕」「むーちー〔鬼餅=月桃の葉に包んだ餅〕」だった。

## 2) 人を表すことば(名詞)

滞在歴10年未満、10年以上ともに「正解」が「不正解」「無回答」を上回っていたのは、「うみんちゅ〔漁師〕」「ちゅらかーぎー〔美人〕」「ないちゃー〔内地の人〕」の3語だった。「無回答」が他を上回っていたのは、「しかさー〔臆病な人〕」「たんちゃー〔短気な人〕」「びーらー〔弱虫、病弱な人〕」「りっちゃー〔金持ち〕」だった。

滞在歴10年以上の回答で「正解」が他を上回っていたのは、16語中12語だった。逆に、滞在歴10年未満は、16語中13語が「無回答」だった。

## 3) 程度を表すことば(副詞)

滞在年数に関係なく、「無回答」が圧倒的に多く(滞在歴10年未満は全て「無回答」、10年以上は21語中19語が「無回答」)、「正解」が他を上回っていたのは、滞在歴10年以上の、「いっぺー」「でーじ」のみ(21語中2語)だった。

## 4) 人間関係を表すことば(名詞)

滞在歴10年未満は全て「無回答」が「正解」「不正解」を上回っていた。滞在歴10年以上は、9語中7語が「正解」で、「不正解」「無回答」を上回り、1語(「いったー〔お前たち〕」)が「正解」と「無回答」が同じ割合、1語(「うっとう〔年下の者、後輩〕」)が「無回答」が「正解」「不正解」を上回った。

## 5) オノマトペ

滞在歴10年未満は全て「無回答」が「正解」「不正解」を上回っていた。滞在歴10年以上は、11語中8語が「正解」で、他を上回り、1語(「ちーちーかーかー〔食べ物か喉につかえる様子〕」)が僅差で<sup>(7)</sup>「無回答」が「正解」を上回った。

### 4.2.3.2. 年齢別

#### 1) 日常生活語彙(名詞)

40～50代、60代～は、全て「正解」が「不正解」「無回答」を上回った。20～30代は、23語中

---

(7) 「ちーちーかーかー〔食べ物か喉につかえる様子〕」の滞在歴10年以上者の正解は43.8%、無回答は46.0%だった。

15語が「無回答」で、他を上回った。すべての年代で「正解」が他を上回ったのは、「がじゃん〔蚊〕」「しーくわーさー〔ひらみレモン〕」「ひーじゃー〔山羊〕」「ごーやー〔苦瓜〕」「なーべーらー〔へちま〕」「じゅーしー〔沖縄風炊き込みご飯〕」「さーたーあんだぎー〔沖縄ドーナツ〕」「むーちー〔鬼餅=月桃の葉で包んだ餅〕」の8語である。なお、20～30代では、「うーじ〔さとうきび〕」が「正解」と「無回答」が同率だった。

## 2) 人を表すことば (名詞)

60代～は、16語中11語が「正解」で、「不正解」「無回答」を上回り、40～50代は、12語が「正解」で、他を上回った。すべての年代で「正解」が他を上回ったのは、「うみんちゅ〔漁師〕」「ちゅらかーぎー〔美人〕」「ないちゃー〔内地の人〕」で、「無回答」が他を上回ったのは、「しかさー〔臆病な人〕」「たんちゃー〔短気な人〕」「びーらー〔弱虫、病弱な人〕」「りっちゃー〔金持ち〕」だった。20～30代は、13語が「無回答」で、他を上回った。

## 3) 程度を表すことば (副詞)

すべての年代で、「無回答」が「正解」「不正解」を上回った(21語中19語)。「正解」が他を上回ったのは、「いっぺー」「でーじ」で、「いっぺー」は60代～と40～50代、「でーじ」は40～50代であった。20～30代は全て「無回答」が他を上回った。

## 4) 人間関係を表すことば (名詞)

60代～は、すべて「正解」が「不正解」「無回答」を上回った。40～50代は9語中4語が「正解」で、他を上回り、1語(「いきが〔男〕」)のみ「正解」と「無回答」が同率だった。20～30代は、すべて「無回答」が他を上回った。

## 5) オノマトペ

60代～は11語中9語が「正解」で、「不正解」「無回答」を上回り、40～50代は8語が「正解」で、他を上回った。20～30代は、1語(「うーとーとー〔神仏や先祖を拝むときのことば〕」)のみ「正解」と「無回答」が同率で、それ以外はすべて「無回答」が他を上回った。すべての年代で「無回答」が他を上回ったのは、「ちーごーごー〔血がだらだら流れる様子〕」「よーがりひーがり〔ひどくやせ細っている様子〕」だった。

### 4.2.3.3. 性別

#### 1) 日常生活語彙 (名詞)

女性は23語中22語が「正解」で、「不正解」「無回答」を上回ったのに対し、男性は「正解」が他

を上回ったのは13語だった。女性の「しくわーさー〔ひらみレモン〕」「ごーやー〔苦瓜〕」の「正解」率は100%だった。男女とも「正解」が他を上回ったのは、「うーじ〔さとうきび〕」「がじゃん〔蚊〕」「しーくわーさー〔ひらみレモン〕」「まやー〔猫〕」「ひーじゃー〔山羊〕」「ごーやー〔苦瓜〕」「なーべーらー〔へちま〕」「てーいだ〔太陽〕」「じゅーしー〔沖縄風炊き込みご飯〕」「さーだーあんだぎー〔沖縄ドーナツ〕」「ふーちばー〔よもぎ〕」「むーちー〔鬼餅=月桃の葉で包んだ餅〕」「しぶい〔冬瓜〕」であり、「無回答」が他を上回ったのは、「やーるー〔やもり〕」だった。

## 2) 人を表すことば（名詞）

女性は16語中12語が「正解」で、「不正解」「無回答」を上回ったのに対し、男性は「正解」が他を上回ったのは5語だった。男女とも「正解」が他を上回ったのは、「うみんちゅ〔漁師〕」「がちまやー〔食いしん坊〕」「ちゅらかーぎー〔美人〕」「ないちゃー〔内地の人〕」で、「無回答」が他を上回ったのは、「しかさー〔臆病な人〕」「たんちゃー〔短気な人〕」「びーらー〔弱虫、病弱な人〕」「りっちゃー〔金持ち〕」だった。

なお、「ふらー、ふりむん〔ばか〕」は、男性の「正解」と「無回答」が同率だった。

## 3) 程度を表すことば（副詞）

「正解」が「不正解」「無回答」を上回ったのは、女性が21語中1語（「いっぺー」）、男性は0語だった（「いっぺー」以外は、男女ともに「無回答」が他を上回った）。

## 4) 人間関係を表すことば（名詞）

女性は9語中7語が「正解」で、「不正解」「無回答」を上回ったのに対し、男性はすべて「無回答」が他を上回った。男女とも「無回答」が他を上回ったのは、「いったー〔お前たち〕」「うっとう〔年下の者、後輩〕」だった。

## 5) オノマトペ

女性は11語中9語が「正解」で、「不正解」「無回答」を上回ったのに対し、男性は「正解」が他を上回ったのは3語だった。男女とも「正解」が他を上回ったのは、「うーとーとー〔神仏や先祖を拝むときのことば〕」「あちこーこー〔料理が出来たてで湯気がたっている様子〕」「わじわじー〔イライラする様子〕」で、どちらも「無回答」が他を上回ったのは、「ちーごーごー〔血がだらだら流れる様子〕」「よーがりひーがり〔ひどくやせ細っている様子〕」だった。

### 4.2.4. クロス集計結果の考察

・正解率の高さは滞在歴の長さに比例しており、滞在歴10年未満<滞在歴10年以上である。また、

10年未満は全てのことばにおいて「無回答」が「正解」（あるいは「不正解」）を上回っていることから、10年未満の滞在では方言を習得するには至らないことがわかる。

・40代を境に方言についての正解率が高くなっており、20～30代<40～50代、60代～である。年齢については、滞在年数との関係が考えられる。

・程度を表すことばは、滞在年数、年齢、性別に関係なく「無回答」が多いことから、日常生活の中でこれらのことばがほとんど意識されていない、あるいは理解されていないことがわかる。

・女性の方が正解率が高く、男性<女性であり、高校生に対する調査結果と同じ傾向が見られる。

・日常生活語彙は、食べ物や食材のことばの正解率が高く、これに身近な動物が加わっており、高校生に対する調査結果と同じ傾向がみられる。

## 5. 考察

### 5.1. 高校生に対する調査結果との比較

高校生に対する調査では、①ウチナーヤマトウグチを使う頻度が高く、方言は頻度が低い、②女性のほうが沖縄のことば（ウチナーヤマトウグチと方言）を積極的に使用している、③身近な動物や食材、食べ物の方言はよく知っている、④テレビやラジオ放送、CM、アニメなどで使われる方言（ことばや決まり文句）は少なくとも理解できる、⑤程度副詞のバリエーションが多い、⑥方言の動詞や形容詞の語尾を共通語化することで、「方言+共通語」のことばを作っている、⑦共通語では言いにくいことばを若者同士でシェアするために、人を悪く言うことばに方言を使用する、といった特徴が見られた。以下では、上記①～⑦について、高校生と外国人との比較を行う。

#### ①「ウチナーヤマトウグチを使う頻度が高く、方言は頻度が低い」

本調査においても、滞在歴、年齢、性別に関わりなく、ウチナーヤマトウグチの使用率が高いのに対し、方言は使用率が低い上、理解も低いということがわかった。これは共通語が使用語彙で方言が理解語彙という状況が高校生や大学生にとどまらず、沖縄の人々一般の現状であることの反映であろう。但し、外国人の場合は、「自分は使わないし、理解もできない」と評定した方言の割合が高く（表3参照）、この点が高校生とは異なる点である（高校生の場合は、「全くわからない」わけではない）。

#### ②「女性のほうが沖縄のことば（ウチナーヤマトウグチと方言）を積極的に使用している」

本調査では、沖縄のことばの女性の使用・理解率が男性に比べて高く、高校生と同じ傾向が見られた。男性も女性も、沖縄の人と接触する機会が「よくある」と答えており、割合もほぼ同率（男性69.7%、女性69.6%）であるにも関わらず、男女に差が生じたのは、なぜだろうか。

表 12：沖縄の人との接触機会の有無

	よくある	時々ある	あまりない	ない
男性	69.7%	18.2%	6.1%	0.0%
女性	69.6%	13.0%	13.0%	4.3%

沖縄の人との接触機会の頻度についての回答を見ると、男性のほうが接触機会がやや多く、女性の方が接触機会が少ない人が多い。それならば、一般的に考えて、男性の方が使用・理解率が高くなる筈であるが、逆の結果が見られるということは、単に「機会の頻度」という量的な要素よりも、質的な要素が関わっていると言えるのかもしれない。

表 13：同居者の有無

	同居者	同居配偶者	同居子ども	同居両親	同居兄弟姉妹	同居友人	同居その他
あり	86.0%	49.1%	42.1%	5.3%	1.8%	28.1%	3.5%
なし	14.0%	50.9%	57.9%	94.7%	98.2%	71.9%	96.5%

表 13 の通り、同居の有無についての回答を見ると、本調査の回答者の約 80%が「同居者あり」で、うち約 40%が子どものいる家族滞在である。沖縄 NGO センター（2015）によると、子どもを日本の学校に通わせている親は半数に達している。この場合、子どもの先生、同級生の親とのコミュニケーションが生じるが、一般的に、子どもを通じたコミュニケーション機会が多いのは母親である可能性が高い。つまり、女性は、職場の人だけでなく、先生、親、近所などの様々な人々とコミュニケーションをする機会が多く、内容的にも仕事以外の話をする機会が男性より多いということが沖縄のことはの使用・理解率の高さにつながっているものと思われる。

### ③「身近な動物や食材、食べ物の方言はよく知っている」

外国人の場合は食材、食べ物を中心に理解しており、身近な動物がこれに加わる程度であり、高校生よりは方言の日常生活語彙が限られている。食材、食べ物などは、スーパー等での表示に方言も使われていることから、視覚情報としても語彙がインプットされるのが要因かもしれない。

### ④「テレビやラジオ放送、CM、アニメなどで使われる方言（ことばや決まり文句）は少なくとも理解できる」

本調査では、人を表すことばの「ちゅらかーぎー [美人]」「うみんちゅ [漁師]」「ないちゃー [内地の人]」、オノマトペの「うーとーとー [神仏や先祖を拜むときのことば]」「あちこーこー [料理が出来たてで湯気がたっている様子]」の正解率が高かった。また、「なんくるないさ [なんとかなるさ]」

「ちばりよー〔頑張れ〕」は、「自分は使わないし、理解もできない」と評定した割合が9.9%以下と低く(9.9%台であった方言は、この2語のみ)、この2語を使用しなくても、少なくとも理解ができる方言であることがわかる。沖縄 NGO センター(2015)によると、外国人はインターネット(59%)や家族・親戚・友人(52%)の他、テレビ・ラジオ(40%)から日常生活の情報を取得しており、日常的にテレビやラジオを視聴していることがわかる。これらの語は、メディア等を通して見聞きする機会の多い語であることから、日常的に視覚と聴覚を通して繰り返し語彙・表現がインプットされ、自然習得につながっているのだろう。

#### ⑤「程度副詞のバリエーションが多い」

外国人の場合は、相対的に程度副詞の理解度は低く、かろうじて「でーじ」「しに」「いっぺー」といったよく耳にする副詞のみがある程度理解されているといった結果になった。これは、外国人が沖縄のことばを単語レベルでは理解できても、センテンスレベルでは理解していないことを示唆している。

#### ⑥「方言の動詞や形容詞の語尾を共通語化することで、『方言+共通語』のことばを作っている」

「しかむ〔驚く〕」「にりる〔飽きる〕」といった「方言+共通語」のことばについては、滞在歴10年以上および40代以上の外国人は「理解できる」と答えているが、それ以外の外国人は「自分は使わないし、理解もできない」と答えている。これに対して、「ちむい〔かわいそう〕」については、滞在歴10年以上でも40代以上でも「自分は使わないし、理解もできない」である。形容詞の場合、単語レベルでの発話が可能なので、文脈に沿った理解がしやすいと考えられるが、結果は異なった。「方言+共通語」のタイプの語についての質問はこの3語のみであり、また回答者数も少ないことから、これ以上の分析はできない。

#### ⑦「共通語では言いにくいことばを若者同士でシェアするために、人を悪く言うことばに方言を使用する」

外国人の場合、人を悪く言う必要がある場合は母語を使用することが考えられる。正解率50%台の「ふらー/ふりむん〔ばか〕」以外は、これらのことばが正解率10~30%台にとどまっているのは、そのためであろう。「ふらー」は深い意味がなくても口に出やすいことばであることから、例外的に外国人の理解度が高いのかもしれない。

## 5.2. 滞在歴と年齢との関係<sup>(8)</sup>

年齢別にみると、40代以降と以前で沖縄のことばの使用・理解が大きく異なる。

表 14：滞在歴と年齢別の関係

	20代	30代	40代	50代	60代	その他
滞在歴 10年未満	52.0%	36.0%	8.0%	0.0%	4.0%	0.0%
滞在歴 10年以上	0.0%	12.5%	50.0%	18.8%	9.4%	9.4%

表 14に見る通り、40代以前は滞在歴 10年未満が多く、10年以上滞在は 40代以上が多い。したがって、沖縄滞在歴と年齢は関連があると言える。10年以上滞在しないと沖縄のことばを使用・理解することはできないが、10年以上滞在しても方言は食生活を中心とした日常生活語彙に限られていることから、滞在歴が長くなるほど沖縄のことばの習得は進むと言えるものの、方言に関しては習得の難しさが窺われる。但し、このことは、沖縄の人々の多くが共通語を核に、ウチナーヤマトゥグチと方言を入れ込んだ形でコミュニケーションをとっているという現状を反映しているとも言えるだろう。

## 6. おわりに

かりまた（2006）も指摘しているように、現在、ほとんどの沖縄の人は共通語、ウチナーヤマトゥグチ、方言を混ぜた状態でコミュニケーションをとっている。一方、外国人は日本語能力がある人でも、本調査の結果から見るに、主に共通語とウチナーヤマトゥグチでコミュニケーションをとっていると考えられる。滞在年数の長い外国人は方言の理解が可能だが、滞在歴 10年未満および若い世代（20～30代）の外国人は方言を理解できていない。こうした状況から、県内在住外国人が沖縄の人とコミュニケーションをとる時、外国人本人が気づかないうちに沖縄の人とのコミュニケーションに支障を来

(8) 下記の表 15、16のように、インドネシア語を母語とする人たちは滞在歴が 5年未満で年代も若い。それに対して、スペイン語を母語とする人たちは滞在歴が 20年以上で 40代以上が多い。現時点での本調査の結果からは、沖縄のことばの使用・理解は、母語の違いというよりは、滞在歴や年代の違いが関係していると言えるだろう。

表 15：母語別滞在歴別人数

	0年～2年未満	2年～5年未満	5年～10年未満	10年～20年未満	20年～30年未満
インドネシア語	1	14	4	0	0
スペイン語	1	2	3	6	23

表 16：母語別年代別人数

	20代～30代	40代～50代	60代以上
インドネシア語	18	1	0
スペイン語	8	23	7

している可能性が考えられる。沖縄 NGO センター（2015）では、31%の外国人が「言葉が通じない」ことを日常生活上の悩みとして挙げているが、この悩みは、あるいは単なる共通語としての日本語ができないというだけでなく、地域のことばがわからないということも含まれている可能性もあるのではないだろうか。

また、同統計によれば、地域社会との交流を望む外国人は63%に達しているが、実際に地域の活動に参加している外国人は「時々」も含めて33%に過ぎず、「参加しない」の59%が大きく「参加する」を上回っている。筆者らの高校生に対する調査では、南部地域が他地域に比べてより積極的に方言を使用しているという結果が見られた。筆者らは、南部地域は「字や部落単位での伝統的な行事がまだ根付いている地域」（尚・佐々木、2015）であるため、このような行事を通して様々な世代の人々と交流し、沖縄の言葉を交えたコミュニケーションの機会が多いことが方言の積極的使用の1つの要因と考えている。外国人もまた地域の活動に積極的に参加することで、沖縄の人々とのコミュニケーション機会が質・量ともに増え、結果的に沖縄のことばの使用・理解率が高まるのではないだろうか。

なお、本調査ははまだアンケートを回収中であり、本稿は研究の途中報告という位置づけである。スペイン語、インドネシア語以外の言語を母語とする外国人に対するアンケートも回収中であり、今後、これらのアンケートを回収・分析した後に、あらためて論考を加えたい。

## 〈参考文献〉

- 井上史雄（1985）「新方言の存在と認定」『言語生活』399, pp. 22-31.
- 井上史雄（1998）「「新方言」とは何だ？共通語化が進んでも方言は生まれ続けている」『望星』29（11）, pp. 33-38.
- 井上史雄（2008）「新方言を考察する」『りびる』創刊号, pp. 120-123.
- 今和泉賀世子（2004）「東京方言の研究：墨田区方言の男女差」『埼玉大國語教育論叢』（7）, pp. 38-29.
- 内間直仁、野原三義（2006）『沖縄語辞典：那覇方言を中心に』研究社
- 沖縄 NGO センター（2015）『平成 26 年度沖縄県多文化共生推進調査事業報告書』  
<http://www.pref.okinawa.jp/site/bunka-sports/koryu/honka/documents/h26tabunakouseihoukokusyo.pdf>
- かりまたしげひさ（2006）「沖縄若者ことば事情：琉球・クレオール日本語試論」『日本語学』25 - 1, pp. 50-59.
- かりまたしげひさ（2008）「トン普通語・ウチナーヤマトウグチはクレオールか - 琉球・クレオール日本語研究のために -」『南島文化』30, pp. 55-65.
- 佐々木香代子、尚真貴子、狩俣幸子（2013）「評定結果から見る沖縄県内高校生の沖縄の言葉の使用について」『社会言語科学会第32回大会発表論文集』pp. 132-135.
- 佐々木香代子、尚真貴子、狩俣幸子（2014）「記述回答結果から見る沖縄県内高校生の沖縄の言葉の使

- 用について』『社会言語科学会第33回大会発表論文集』pp. 32-35.
- 佐々木香代子, 尚真貴子, 狩俣幸子, 田中寛二 (2014)『高校生の沖縄語使用についての調査・研究：消えていく言葉の中で何が残っていくか』平成23年度～25年度科学研究費補助金基盤研究(C), 課題番号23520557, 研究代表者佐々木香代子, 研究成果報告書
- 真田信治(2001)『方言は絶滅するのか：自分のことばを失った日本人』PHP新書
- 下地賀代子(2013)「琉球語をとりまく諸問題」沖縄国際大学南島文化研究所第185回シマ研究会発表レジュメ
- 尚真貴子, 佐々木香代子, 狩俣幸子(2013)「若者の沖縄の言葉の使用および理解」『沖縄国際大学外国語研究』17-1, pp. 1-25.
- 尚真貴子, 佐々木香代子(2015)「県内高校生の沖縄の言葉の使用について：変容していく言葉、残っていく言葉」『沖縄国際大学総合学術研究紀要』18-1, pp. 1-40.
- 高江洲頼子(1994)「ウチナーヤマトウグチ：その音声、文法、語彙について」『沖縄言語研究センター研究報告3 那覇の方言I』pp. 245-289. 沖縄言語研究センター
- 高江洲頼子(2002)「ウチナーヤマトウグチをめぐって」『国文学解釈と鑑賞』第67巻7号, pp. 151-160. 至文堂
- 永田高志(1999)「沖縄地方の地域方言と社会方言」『日本語学』11月臨時増刊号 vol. 18, pp. 220-227.
- 野原三義(1996)「沖縄の若者言葉」『沖縄文化研究』22, pp. 265-282.
- 半田一郎、編著(1999)『琉球語辞典』大学書林
- 法務省『在留外国人統計2016年6月末 都道府県別国籍・地域別在留外国人』  
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001161643>
- 宮良信詳(2000)『うちなーぐち講座』沖縄タイムス社
- 屋比久浩(1987)「ウチナーヤマトウグチとヤマトウチナーグチ」『国文学解釈と鑑賞』第52巻7号, pp. 119-123. 至文堂
- 米川明彦(2014)「昭和の若者ことば：過去と現在を比較して」『日本語学』vol. 33-15, pp. 38-47.

<資料1>

沖縄県内在住外国人に対するアンケート調査票（日本語版）

※県内在住外国人には外国語版（スペイン語、インドネシア語）を配布した。

外国人に対する沖縄語調査（日本語版）

沖縄語調査  
外国人のみなさんへ

みなさんも知っているように、沖縄の方言がだんだん消えていっています。こうした状況の中で、外国人のみなさんがどれだけ沖縄のことばを使っているか調査したいと思います。考えすぎると、答えられなくなりまして、深く考えずに、思いつくまに答えてください。

まず、あなたについて伺います。

0. 今、どこに住んでいますか？（市町村名をかいってください）： \_\_\_\_\_ 市 / \_\_\_\_\_ 町 / \_\_\_\_\_ 村

1. 沖縄滞在歴 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ か月

沖縄生まれ、または沖縄育ちの場合：

- a. 沖縄で生まれた
- b. 沖縄で育った（ \_\_\_\_\_ 歳から）

2. 年齢

- a. 20代
- b. 30代
- c. 40代
- d. 50代
- e. 60代
- f. その他（ \_\_\_\_\_ 代）

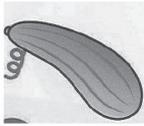
3. 性別

- a. 男
- b. 女



アンケート調査質問票 (外国人用)  
 <漢字仮名交じり版>

1. 名詞 絵とことばをマッチングしてください。

							( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )
							( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )
							( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )
							( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

- ①しーくわーさー、②じゅーしー、③ひらやちー、④さーたーあんだぎー、⑤むーちー、⑥ごーやー、⑦なーべーらー、  
 ⑧ふーちばー、⑨あかばなー、⑩さんにな、⑪うーじ、⑫やーるー、⑬がじゃん、⑭とーびーらー、⑮まやー、  
 ⑯ひーじやー、⑰いん、⑱まーす、⑲まーみなー、⑳しがい、㉑がらんちよー、㉒かんぶー、㉓ていーだ

2. 人を表すことば  の中から、あてはまる意味を選んでください。

- 1) いばやー( )    2) うーまくー( )    3) うみんちゅ( )    4) がーじゅー( )    5) がちまやー( )  
 6) しかさー( )    7) たんちやー( )    8) ちゅーばー( )    9) でいきやー( )    10) ちゅらからーぎー( )  
 11) ないちやー( )    12) ふらー/ふりむん( )    13) ゆくさー( )    14) びーらー( )    15) りっちやー( )  
 16) よーがらー( )

① わんぱく びじん	② 他府県の人 たふけんの人	③ 強情な人 ごうじやうの人	④ 短気な人 たんきの人	⑤ 食いしん坊 くいしんぼう	⑥ 強い人 つよの人	⑦ 漁師 りやうし	⑧ お金持ち かねもち
⑨ 美人 びじん	⑩ 弱虫 よわむし	⑪ ばか	⑫ 威張っている人 いばかっている人	⑬ うそつき	⑭ 臆病な人 おくびやうの人	⑮ 頭がいい人 あたまがよい人	⑯ やせた人 よせた人

3. 程度を表す副詞

例えは、「あつ暑い」のかせん下線にあてはまる(「とても」や、それに近いニュアンスがある)沖繩のことばに○をつけてください。  
 ( 複数 かいとうか 回答可)

- ① いっぺー    ② あんまさい    ③ にりー    ④ さっこー    ⑤ しか    ⑥ ふーじー    ⑦ しにかん    ⑧ した  
 ⑨ しやに    ⑩ がっぱい    ⑪ てーげー    ⑫ じりー    ⑬ やっけー    ⑭ しに    ⑮ さら    ⑯ うすまさ  
 ⑰ いじやー    ⑱ じゅんに    ⑲ りっか    ⑳ で一じ    ㉑ したたか

4. ウチナグチとウチナーヤマトウグチ

下線のことばについて、あなた使用的是か？または理解できますか？あてはまるものに○をつけてください。

ことばと例文 訳	自分 は使 う	自分は使 われないが、 理解できる	自分 は使 われないし、 理解も できない
1) おとうさんの <u>車</u> 、じょうとうだね。 訳：お父さんの車、いいね。			
2) <u>トイレ</u> するから待ってて〜。 訳：トイレに行くから、待ってて〜。			
3) 大掃除の時に、床を <u>モップ</u> した。 訳：大掃除の時に、床をモップで掃除した。			
4) 早いけど、 <u>お昼</u> するねえ。 訳：(時間が) 早いけど、 <u>お昼</u> にするね。			
5) A：明日のビーチャーティー、社長も来るかな？ 訳：明日のビーチャーティー、社長も来るかな？ B：よくわからないけど、来るはずよ。 訳：(社長)が来るかどうか) わからないけど、来ると思うよ。			
6) (私は一人で) <u>るうね</u> 。/ <u>帰りましようね</u> 。 訳：(私は一人で) 帰ります。			
7) 6時まで、家に <u>帰りきれない</u> 。 訳：6時まで、家に帰れない。			
8) (社長)にむかって) これ、どうぞ <u>いだいて</u> ください。 訳：(社長)にむかって) これ、どうぞ <u>召し上が</u> ってください。			
9) (弟、妹など年下に) 言うこと聞か <u>なかつたら</u> 、 <u>たたかれるよ</u> 。			

<p>(たたくのは自分)</p> <p>訳：(弟、妹など年下にむかって) 言うこと聞かなかつたら、<u>節くよ</u>。</p>			
<p>10) これ、<u>食べれ</u>。早く、コピーし<u>れ</u>。</p> <p>訳：これ、<u>食べろ</u>。早く、コピーし<u>ろ</u>。</p>			
<p>11) ここに<u>来ながら</u>、パンを買った。</p> <p>訳：ここに<u>来るついでに</u>、パンを買った。</p>			
<p>12) (相手に) 昨日、<u>買い物</u>に行った<u>わけ</u>。そしたら、<u>買いたい物</u>がなかった<u>わけ</u>。</p> <p>で、<u>あちこち探したわけ</u>さ。</p> <p>訳：(話をしている相手に) 昨日、<u>買い物</u>に行ったんだ。そしたら、<u>買いたい物</u>がなかったんだ。それで、<u>あちこち探したんだ</u>。</p>			
<p>13) A: このTシャツ、明日も<u>着るわけ</u>?</p> <p>訳：このTシャツ、明日も<u>着るの</u>?</p> <p>B: うん、<u>着るよ</u>。</p> <p>訳：うん、<u>着るよ</u>。</p>			
<p>14) <u>試着</u>したけど、このジーンズ、<u>せまい</u>さあ。</p> <p>訳：<u>試着</u>したけど、このジーンズ、(サイズが合わなくて) <u>小さい</u>よ。</p>			
<p>15) 弁当、<u>こんなに暑い</u>ところに置いてたら、<u>腐れる</u>よー。</p> <p>訳：弁当、<u>こんなに暑い</u>ところに置いたら、<u>腐る</u>よ。</p>			
<p>16) <u>みんなと出かける時</u>に<u>つける服</u>がない。</p> <p>訳：みんなと出かける時に<u>着る服</u>がない。</p>			
<p>17) <u>お腹</u>すいてたから、<u>ちやー</u>食べーした。日曜日、<u>ちやー</u>寝ーしてた。</p> <p>訳：<u>お腹</u>すいてたから、<u>ずつと</u>食べてた。日曜日は、<u>ずつと</u>寝ていた。</p>			
<p>18) 一人で<u>大変</u>だけれど、<u>なんくるないさ</u>。</p> <p>訳：一人で<u>大変</u>だけれど、<u>なんとかなるさ</u>。</p>			

<p>19) 今日(けふ)は、くわちーだね。何かあるの？          訳：今日は、<u>ご馳走</u>だね。何かあるの？</p>				
<p>20) そばじょーぐー。ポークじょーぐー。豆腐(とうふ)じょーぐー。          訳：そばが大好き。ポークが大好き。豆腐が大好き。</p>				
<p>21) A：ごろごろしないで、早く部屋(へや)をかたづけなさい。          訳：ごろごろしないで、早く部屋をかたづけなさい。          B：ああ、<u>なんざ</u>。          訳：ああ、<u>大変</u>。</p>				
<p>22) いつも当番(とうばん)させられて、自分(じぶん)だけ<u>なんざ</u>している。          訳：いつも当番させられて、自分だけ<u>大変</u>な思(おも)いをしている。</p>				
<p>23) <u>ふらー</u>、気(き)をつけてって言ったのに、ころんで。          訳：<u>バカ</u>、気をつけてって言ったのに、ころんで。</p>				
<p>24) 子どもの頃(ころ)頃、悪いこととして、親(おや)によく<u>めーごーさー</u>された。          訳：子どもの頃、悪いことをして、親によく(額(ひたい)に)げんこつをくらわされた。</p>				
<p>25) あそこの品物(しやうぶつ)は<u>やなー</u>だから、買(か)わないほうがいいよ。          訳：あそこの品物は<u>質(かぜ)</u>が良くないから、買わない方がいいよ。</p>				
<p>26) <u>やな</u>傘(かさ)だね。風(かぜ)ですぐ、こわれたさ。          訳：質(かぜ)の悪い(粗悪(そあく)な)傘(かさ)だね。風(かぜ)ですぐ、こわれたよ。</p>				
<p>27) 妻(つま)は友達(ともだち)と<u>ゆんたく</u>して、今日(けふ)も夕飯(ゆふめし)を作(つく)っていない。          訳：妻は友だちとおしゃべりして、今日も夕飯を作っていない。</p>				
<p>28) うちのお母(おはは)さんの料理(りょうり)は、<u>あじくーたー</u>だよ。          訳：うちのお母さんの料理は、味付け(あじづけ)にこくがあったておいしいよ。</p>				
<p>29) この問題(もんだい)、難(むずかしい)しすぎて(何を言(い)っているか) <u>いみくじ</u>わからん。          訳：この問題、難しすぎて、(何を言っているのか) <u>意味(こころみ)</u>がわからない。</p>				

30) <u>ちばりよー！絶対勝てよー！</u> 訳：がんばれー！絶対、勝てよー！				
31) 寒いから、しっかり布団をかぶって寝た。 訳：寒いから、しっかり布団をかけて寝た。				
32) 雨降っても、傘、かぶらんよ。 訳：雨が降っても、傘をささないよ。				
33) 人、しかもさんで、まだどきどきしてるさー。 このぐらいでしかもさんで/しかもな。 訳：人を驚かさないで、まだ(胸が)ドキドキしてるよ。このぐらいで、驚くな。				
34) (電話で) A:「今から私の家に来る？」 訳：(電話で) A:「今から私の家に来る？」 B:「わかった、今来るさ。」 訳：わかった。今、行くよ。				
35) (繰り返し返し、簡単な作業をしながら)「これにりるー！」 毎日、ゴーヤーばかり食べてにりるよ。 訳：「これ、飽きる！」毎日、ゴーヤーばかり食べて、飽きるよ。				
36) <u>あわてないと、間に合わないよ。</u> 訳：急がないと、間に合わないよ。				
37) このみかん、全部で何個あるか、よんでみて。 訳：このみかん、全部で何個あるか、数えてみて。				
38) 机に置いてあった本、本棚になおした。 訳：机に置いてあった本を、本棚に片づけた。				
39) <u>こんなふとい本、すぐには読めないよ。</u> 訳：こんなに厚い本、すぐには読めないよ。				

40) 宝くじを10年買っている。 <u>やしが</u> 、千円も当たったことがない。 訳：宝くじを10年買っている。でも、千円も当たったことがない。				
41) 自分だけいい顔して、 <u>はご一</u> 。 訳：自分だけいい顔して、イヤな性格だね一。				
42) 社長 <u>じら一</u> して、私をおこるのか。 訳：社長ぶって、私を怒るのか。				
43) <u>あが一</u> 、私の足をふむな。 <u>あが一</u> 、痛いだろう、たたくな。 訳：痛いっ！私の足を踏むな。痛いっ、痛いだろう、叩くな。				
44) この商品のプレゼンは、私がする <u>さ一</u> ね一。 訳：この商品のプレゼンは、私がするよ。				
45) このジュシー一、おいしいよ。 <u>かめ一</u> 。 訳：このジュシー一、おいしいよ。食べる。				
46) あの人は悪くないのに部長にしかられて、 <u>ちむいよ</u> 。 訳：あの人は悪くないのに部長にしかられて、かわいそうだよ。				
47) <u>だ一</u> 、ちよっとかして。 訳：ねえ、ちよっと貸して。				
48) <u>だ一</u> る、あなたの言うとおおり。 訳：そうだ、あなたの言う通り。				
49) この辺はトイレ <u>かじや一</u> する。 訳：この辺はトイレの臭いがする。				
50) こんなところで、 <u>ぬ一</u> そ一が？ 訳：こんなところで、何をしているの？				

<資料2> 沖縄のことば（方言）の理解調査の回答結果（度数分布）

ことば	正解	不正解	無回答
さんにん	36. 8	7. 0	56. 1
うーじ	56. 1	0	43. 9
やーるー	43. 9	0	56. 1
がじゃん	59. 6	0	40. 4
しーくわーさー	86. 0	0	14. 0
とーびーらー	49. 1	5. 3	45. 6
まやー	56. 1	3. 5	40. 4
ひーじゃー	70. 2	0	29. 8
いん	45. 6	5. 3	49. 1
ごーやー	94. 7	0	5. 3
ひらやちー	57. 9	0	42. 1
なーべーら	78. 9	5. 3	15. 8
ていーだ	59. 6	1. 8	38. 6
じゅーしー	73. 7	1. 8	24. 6
さーたーあんだぎー	87. 7	0	12. 3
ふーちばー	63. 2	1. 8	35. 1
まーみなー	54. 4	1. 8	43. 9
むーちー	80. 7	0	19. 3
がんちょー	43. 9	5. 3	50. 9
あかばなー	50. 9	1. 8	47. 4
しぶい	66. 7	3. 5	29. 8
かんぶー	50. 9	3. 5	45. 6
まーす	56. 1	1. 8	42. 1

沖縄のことば（方言）の理解：名詞の回答結果（度数分布）

ことば	正解	不正解	無回答
いばやー	35. 1	5. 3	59. 6
うーまくー	54. 4	1. 8	43. 9
うみんちゅ	77. 2	0	22. 8
がーじゅー	38. 6	12. 3	49. 1
がちまやー	70. 2	0	29. 8
しかさー	19. 3	3. 5	77. 2
たんちやー	17. 5	14. 0	66. 7
ちゅーばー	47. 4	3. 5	49. 1
でいきやー	47. 4	0	52. 6
ちゅらかーぎー	86. 0	1. 8	12. 3
ないちやー	75. 4	0	24. 6
ふらーふりむん	56. 1	3. 5	40. 4
ゆくさー	38. 6	3. 5	57. 9
びーらー	12. 3	1. 8	86. 0
りっちやー	26. 3	1. 8	71. 9
よーがらー	50. 9	0	49. 1

沖縄のことば（方言）の理解：人を表すことばの回答結果（度数分布）

ことば	正解	不正解	無回答
いっぺー	38. 6	0	61. 4
さっこー	10. 5	0	89. 5
しか	7. 0	0	93. 0
しにかん	1. 8	0	98. 2
しった	3. 5	0	96. 5
しゃに	8. 8	0	91. 2
てーげー	10. 5	0	89. 5
やっけー	7. 0	0	93. 0
しに	33. 3	0	66. 7
さら	0	0	100. 0
うすまさ	12. 3	0	87. 7
じゅんに	7. 0	0	93. 0
でーじ	40. 4	0	59. 6
したたか	10. 5	0	89. 5

沖縄のことば（方言）の理解：程度を表すことばの回答結果（度数分布）

「地域の言葉」を外国人は理解しているか

ことば	正解	不正解	無回答
しーじゃ	24. 6	17. 5	57. 9
いきが	36. 8	8. 8	54. 4
やー	43. 9	10. 5	45. 6
どうし	40. 4	3. 5	56. 1
わったー	36. 8	21. 1	42. 1
いなぐ	43. 9	7. 0	49. 1
いったー	26. 3	12. 3	61. 4
わん	43. 9	8. 8	47. 4
うっとう	21. 1	12. 0	64. 9

沖縄のことば（方言）の理解：人間関係を表すことばの回答結果（度数分布）

ことば	正解	不正解	無回答
うーとーとー	66. 7	3. 5	29. 8
あちこーこー	61. 4	1. 8	36. 8
ちーちーかーかー	29. 8	12. 3	57. 9
ちーごーごー	31. 6	7. 0	61. 4
ちむどんどん	49. 1	1. 8	49. 1
わじわじー	57. 9	0	42. 1
むちゃむちゃ	54. 4	1. 8	43. 9
しりしりー	49. 1	7. 0	43. 9
歯ーぎしぎしー	45. 6	5. 3	49. 1
鼻びーびー	40. 4	12. 3	47. 4
よーがりひーがり	26. 3	7. 0	66. 7

沖縄のことば（方言）の理解：オノマトペの回答結果（度数分布）

**Do Foreigners Understand Local Words?:  
Comparing the Results with Research on High School Students in Okinawa**

**Makiko SHO**

**Kayoko SASAKI**

Abstract

The authors have been investigating since December 2015 whether foreigners living in Okinawa Prefecture understand and use the Okinawan language.

This paper summarizes the interim results and compares them with the authors' previous findings for high school students in the prefecture. Foreigners living in Okinawa and the high school students had in common their high usage rates of *uchina yamato guchi*, the Okinawan language, but low usage rates of dialects of it.

The foreigners and high school students were different in that the former had very limited comprehension of dialect, but the students did have some understanding of it.